

(1) 過去10年間の調査結果の推移グラフと県基準値との比較

7歳（小学2年生）

【体力の状況】

注目1 握力は近年向上傾向にあり、ほぼ全国水準となっています。

注目2 長座体前屈は、低学年段階では全国水準を上回っています。

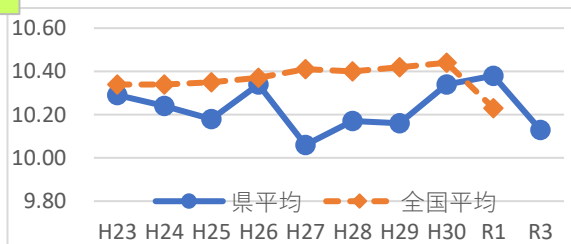
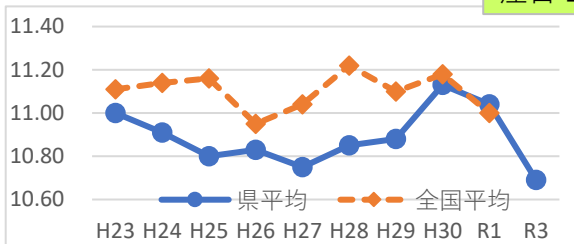
注目3 ボール投げは、全国水準に近づきつつあります。

過去10年間の調査結果の推移グラフ

【男子】 ①握力

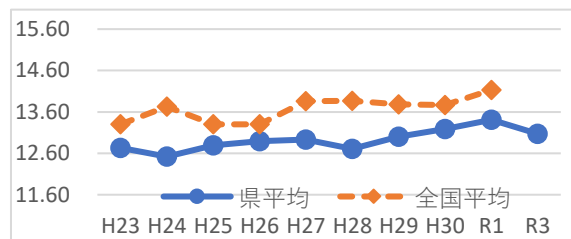
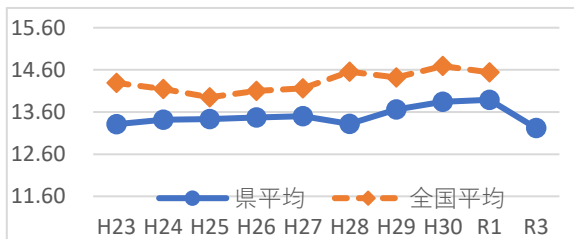
注目1

【女子】 ①握力



②上体起こし

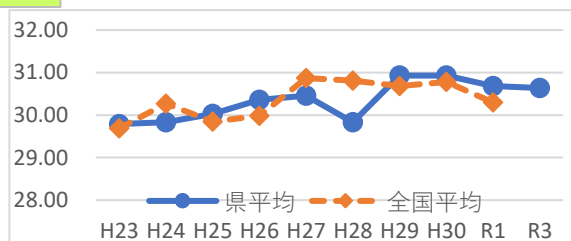
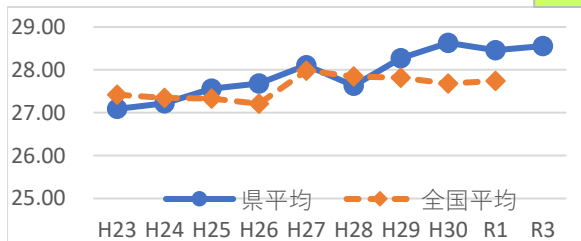
②上体起こし



③長座体前屈

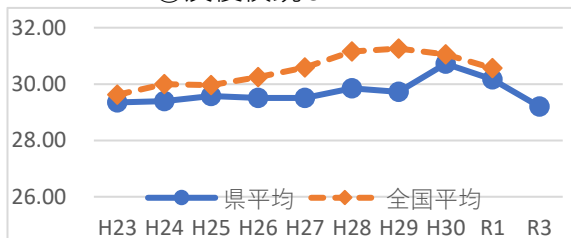
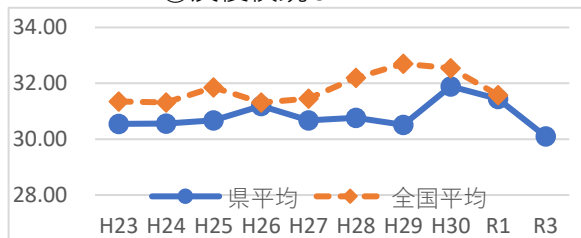
注目2

③長座体前屈



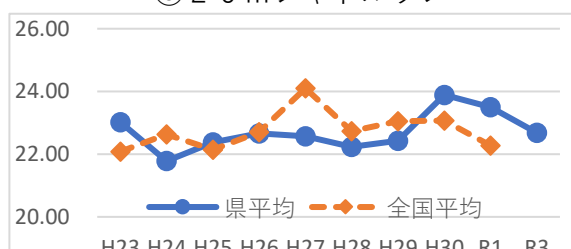
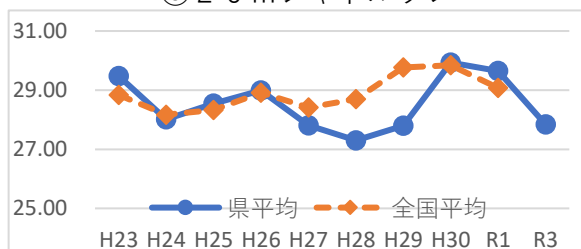
④反復横跳び

④反復横跳び

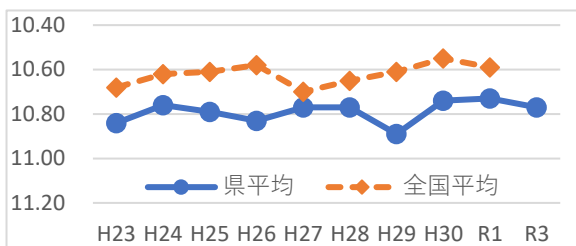


⑤20mシャトルラン

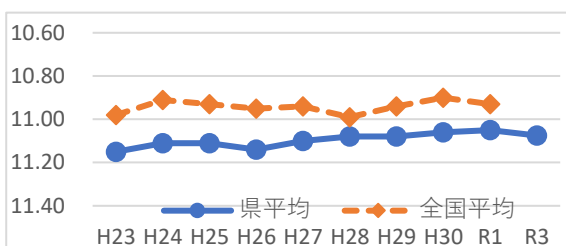
⑤20mシャトルラン



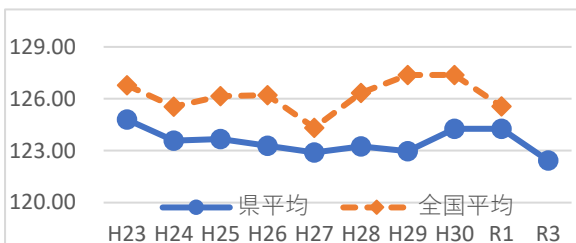
⑥ 50m走



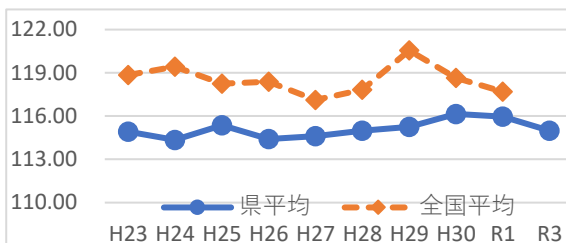
⑥ 50m走



⑦ 立ち幅跳び



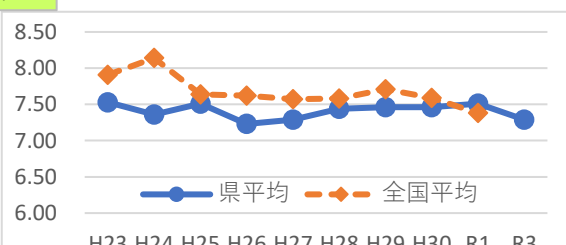
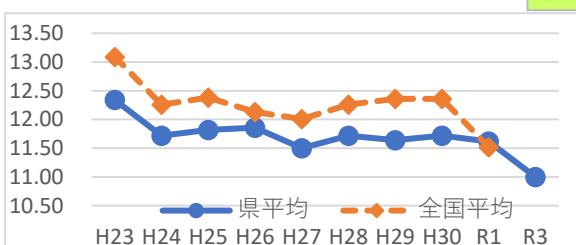
⑦ 立ち幅跳び



⑧ ボール投げ

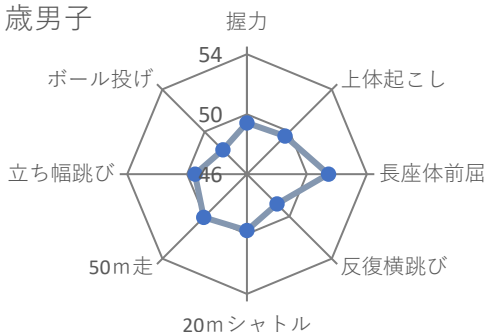
注目3

⑧ ボール投げ

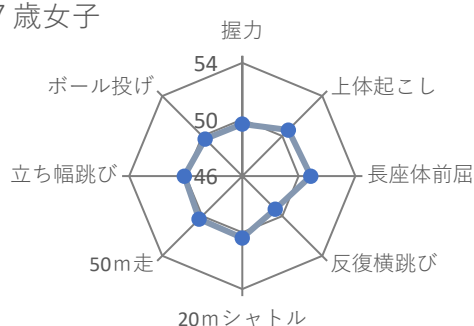


県基準値を50としたときの本年度の平均値のTスコアによるレーダーチャート

7歳男子



7歳女子



【指導上のポイント】

低学年児童は、思考と活動が未分化な時期にあり、「動くこと」と「考えること」が同時に進むという特徴があります。また、様々な運動遊びの経験から、運動への肯定的な態度や多様な動きを身に付けるときです。生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるスタートの段階として、次の3つのことに特に配慮する必要があります。

- ① 易しい運動遊びを通して運動の楽しさを十分に味わわせること
- ② 進んで自分たちの活動の仕方やルールを工夫することができるようにすること
- ③ 体の基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けさせること

